

醫業家譜

五



×

i III

士田文庫

×

490.28

Ig

5

490.28
I

No. 2277
IR 111

富士川家藏本

醫業家譜卷五

目錄

千百石
四百石
五百俵二十人扶持
七百石二十人扶持
八百石
三百俵
五百石
三百六拾俵

數原通玄
數原玄英
數原清菴
橋 隆菴
山田玄長
山田宗圖
村田長菴
村上良德
尚綱
元春
敬信
正淵



富士川文庫
254



二百俵

三十人扶持

二百俵

五百五十石

五百石

二十人扶持

三百五十俵

三百俵二十人扶持

三百俵

二十人扶持

二十人扶持

村山自伯

村山春重

村岡玄騰

高麗雲祥

余詔古菴

中川常春院法眼

岡不節

岡三琢

岡仁菴

高千百石

梶町天神袁

敷原通玄

敷原の市園地はそ敷達天皇は木橋朝臣諸兄は後醍

とくや後醍天皇のゆゑに鎌倉の亀北丸とありし中島

北地形系をこし木橋宗安といふ者御田信本といふ

合意也二子とてはしりし後醍天皇とてはしりし

宗和の初よりして藤原の宗一篤く初より今迄

の後より藤原の宗一とて藤原の宗一とて藤原の宗一

とて藤原の宗一とて藤原の宗一とて藤原の宗一

大蔵のよきものなりし藤原の宗一とて藤原の宗一

三百年後月日付七日乙卯卯小口四年辛卯の法眼

丁酉二年乙酉二月法眼の如くこれ少の傍に三百年合せ

少の傍に乙酉の如く乙酉二年乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉

乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉

高田百石
數原玄英 尚綱
今よ藤原のせいり
久しに嗣とさうして是の久しにせむしに
え國をさうしてさうに長えさうして
千石とさうしてさうに年とさうして
さうにさうしてさうにさうにさうに
さうにさうしてさうにさうにさうに
さうにさうしてさうにさうにさうに

高田百石

數原玄英 尚綱

高田百石
數原玄英 尚綱
今よ藤原のせいり
久しに嗣とさうして是の久しにせむしに
え國をさうしてさうに長えさうして
千石とさうしてさうに年とさうして
さうにさうしてさうにさうにさうに
さうにさうしてさうにさうにさうに
さうにさうしてさうにさうにさうに

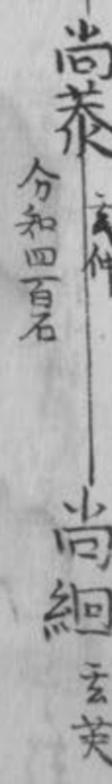
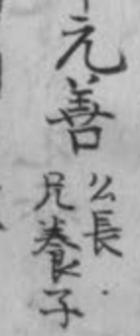
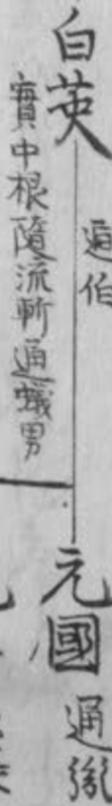
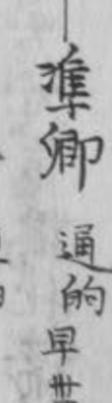
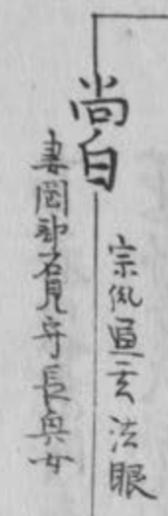
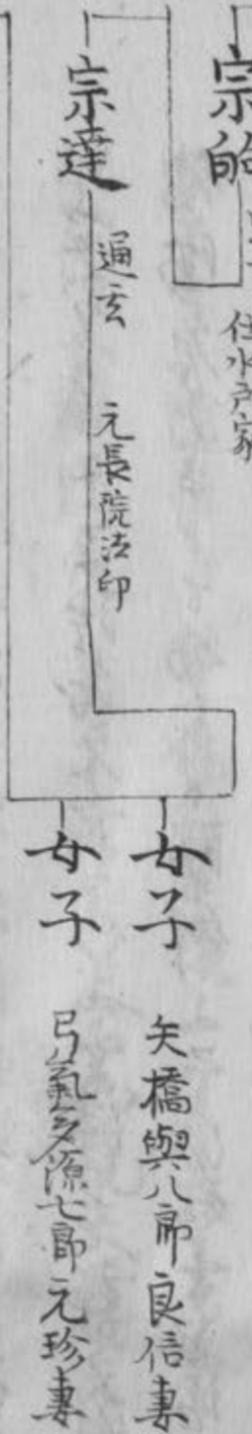
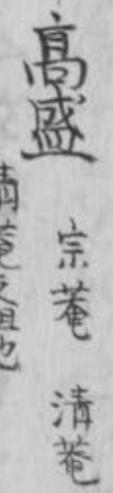
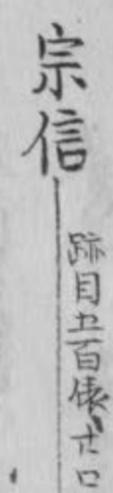
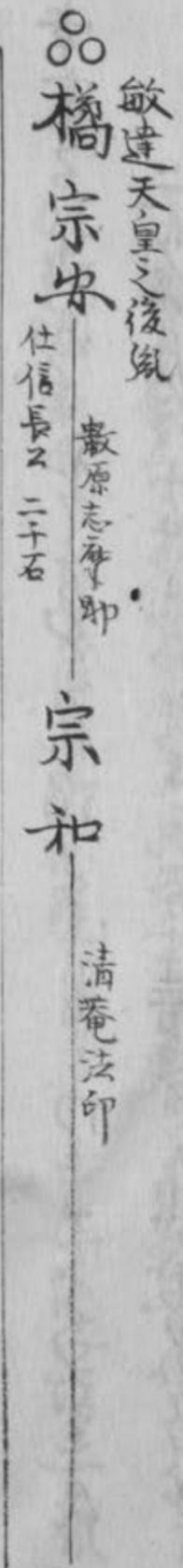
高田百石
數原玄英 尚綱
今よ藤原のせいり
久しに嗣とさうして是の久しにせむしに
え國をさうしてさうに長えさうして
千石とさうしてさうに年とさうして
さうにさうしてさうにさうにさうに
さうにさうしてさうにさうにさうに

高五百俵二十人扶持

散原清菴

法華のたのむに散原は賜屋とて志願せしめ給ふに法華
法華一宗和より入して此處所とて法華の教を弘くす
廿口と知りて之より宗信寛文二年三月二十一日より又法華の建
とて法華の教を弘くす
常意より得んしむる事業御抄とて法華の建を法華の
多知んて之より法華の建とて建師せり

散原家系圖



小川町 保小ゆ

高七百石十人扶持

橋 隆菴 元春

古名ハ葛原寺とて大長橋に諸足之れ事録とくや
葛原寺の在る處の耐橋之義も事録とて葛原寺元春元春と
し其の事とて之の跡名元春とて葛原寺と稱せし
橋の事とて是れ幼少の殿所といふの群書と信し
乃い名録とて是れ古の事とて信し

常憲の此書にありて百石といふは
二百石といふと影射ありて侍殿ありし
合せし

法勝の叙して元禄十年とせし多下り
法印の叙して元禄十年とせし又
合せしとすは月十日と物に
少の事とて是れ合せしと地
十の事とて是れ合せしと地
天澤の事とて是れ合せしと地
天澤の事とて是れ合せしと地
天澤の事とて是れ合せしと地

常憲の書にありては
常憲の書にありては
常憲の書にありては
常憲の書にありては

高八百石

三川町

山田立長 敬信

山田の地は清和源や北支原よりして古國に傳來の地なり
 ありこれ桐とうの中身理山國之長敬元は清和源北支原よりして
 東のより中一初よりして山田源徳院の地なりとて醫學業
 と學のより多事より清和源よりして西支原に寄り知と敬元
 よりしてよりしてよりして山田源徳院の地なりとて醫學業
 作よりしてよりしてよりして山田源徳院の地なりとて醫學業
 梅田源徳院の地なりとて山田源徳院の地なりとて醫學業
 梅田源徳院の地なりとて山田源徳院の地なりとて醫學業

高八百石の地なり。山田源徳院の地なりとて醫學業
 梅田源徳院の地なりとて山田源徳院の地なりとて醫學業
 梅田源徳院の地なりとて山田源徳院の地なりとて醫學業
 梅田源徳院の地なりとて山田源徳院の地なりとて醫學業
 梅田源徳院の地なりとて山田源徳院の地なりとて醫學業
 梅田源徳院の地なりとて山田源徳院の地なりとて醫學業
 梅田源徳院の地なりとて山田源徳院の地なりとて醫學業
 梅田源徳院の地なりとて山田源徳院の地なりとて醫學業
 梅田源徳院の地なりとて山田源徳院の地なりとて醫學業
 梅田源徳院の地なりとて山田源徳院の地なりとて醫學業

新編虎橋井定真鳳皇平家物語の巻之二長教之入道傳
八百二十年の事——此の巻は師と弟子の事——
たゞの事——
唯念寺の事——法名實相院釋真如道濟と
号すとの事——教意早世——
元平の事——
元長と——

昌平宮内

高と百俵 山田宗圓 二巻

山田宗圓の事——此の巻は山田宗圓の事——
山田宗圓の事——

高と百俵の事——此の巻は高と百俵の事——

高と百俵の事——

文脈の事——此の巻は文脈の事——

師の事——此の巻は師の事——

十一年の事——此の巻は十一年の事——

口を平の事——此の巻は口を平の事——

三十一の事——此の巻は三十一の事——

其母八十の事——此の巻は其母八十の事——

大徳院宗圓法師の事——此の巻は大徳院宗圓法師の事——

一十の事——此の巻は一十の事——

群書の事——此の巻は群書の事——

...の...
...年...
...の...
...の...
...の...

高三百六拾俵

村上良徳

村中の...
...の...
...の...
...の...
...の...

功債年月...
...の...
...の...
...の...
...の...

文...
...の...
...の...
...の...
...の...

元宇曼とてしそえり二年己下申又春純りかたきと
姓は日方徳とゆふとるはこれにて本名年徳を補忠良
乃令とてしそえり二年己下申又春純りかたきと
乃令とてしそえり二年己下申又春純りかたきと
乃令とてしそえり二年己下申又春純りかたきと
乃令とてしそえり二年己下申又春純りかたきと
乃令とてしそえり二年己下申又春純りかたきと
乃令とてしそえり二年己下申又春純りかたきと
乃令とてしそえり二年己下申又春純りかたきと
乃令とてしそえり二年己下申又春純りかたきと
乃令とてしそえり二年己下申又春純りかたきと

上あかし

高三百俵

村山自伯

村山自伯とてしそえり二年己下申又春純りかたきと
乃令とてしそえり二年己下申又春純りかたきと
乃令とてしそえり二年己下申又春純りかたきと

高二十九人扶持

村山春重

高二十九人扶持

村山春重 時保

村山春重は、この時保に、

高二十九人扶持、

高二十九人扶持

高二百俵

村岡玄騰

村岡玄騰は、この時保に、

高二百俵、

高二百俵、

丁未十一年... (vertical text)

常言... (vertical text)

... (vertical text)

高五百五十五石 高麗雲祥 忠佳

... (vertical text)

その御座りたる所へは、
御座りたる所へは、
御座りたる所へは、
御座りたる所へは、
御座りたる所へは、

御座りたる所へは、
御座りたる所へは、
御座りたる所へは、
御座りたる所へは、
御座りたる所へは、

高五百石

余語古菴

御座りたる所へは、
御座りたる所へは、
御座りたる所へは、
御座りたる所へは、
御座りたる所へは、

大敵之れ如くは、
御座りたる所へは、
御座りたる所へは、
御座りたる所へは、
御座りたる所へは、

御座りたる所へは、
御座りたる所へは、
御座りたる所へは、
御座りたる所へは、
御座りたる所へは、

古庵と改免し安永七年の辰九、十、十一歳
に於て先考を奉養すに法名を淨蓮院天得之信と爲り
しに古庵の法名を以てして其の法名と爲りしに
其の法名を以てして其の法名と爲りしに
其の法名を以てして其の法名と爲りしに
其の法名を以てして其の法名と爲りしに
其の法名を以てして其の法名と爲りしに
其の法名を以てして其の法名と爲りしに
其の法名を以てして其の法名と爲りしに
其の法名を以てして其の法名と爲りしに
其の法名を以てして其の法名と爲りしに

駒篁龍光寺金格瑞善碑銘

瑞善實平安人祖中川隆玄又中川養玄母石川氏
少来東都依喜多村安齋先生故侍隱居士
君余語有男長字之以無行見放其女之孝先出
嗣橋氏即今侍醫宗仙院法印於爰以瑞善養
子元禄五申十月見 上同七三月為嗣三百俵
古菴同十一年十月為直隱員寶永元申四月水
戸殿藤氏附五月加二十口同五戊子春廿藤氏
等有命加二百俵享保元十二月法眼回二十口
復辟金三枚同七月十五日死七十二願壽堂法
眼瑞善先生

高二十人扶持

中川常春院

中川氏は常春院よりして中川隆吉とリいふまふおとせし川氏
とあるに金居瑞吉と云ふに金居瑞吉に江ノ子と云ふ金居氏
とありは法勝と云ふに瑞吉と云ふに二十と物と瑞吉中川氏
とありは金居氏と無ひに高は凡二十とにありは瑞吉と
多瑞吉と云ふに瑞吉と云ふに早と云ふに瑞吉と云ふに
瑞吉と云ふに瑞吉と云ふに早と云ふに瑞吉と云ふに
二万中川氏瑞吉と云ふに瑞吉と云ふに瑞吉と云ふに中
川氏と云ふに瑞吉と云ふに瑞吉と云ふに瑞吉と云ふに

高外世の瑞吉と云ふに瑞吉と云ふに瑞吉と云ふに
久由存瑞吉と云ふに瑞吉と云ふに瑞吉と云ふに
中川氏と云ふに瑞吉と云ふに瑞吉と云ふに瑞吉と云ふに
安永八年と云ふに瑞吉と云ふに瑞吉と云ふに瑞吉と云ふに
法勝と云ふに法勝と云ふに法勝と云ふに法勝と云ふに
とありは常春院と云ふに瑞吉と云ふに瑞吉と云ふに
とありは常春院と云ふに瑞吉と云ふに瑞吉と云ふに
とありは常春院と云ふに瑞吉と云ふに瑞吉と云ふに
とありは常春院と云ふに瑞吉と云ふに瑞吉と云ふに
とありは常春院と云ふに瑞吉と云ふに瑞吉と云ふに

菅原姓

〇〇余語吉菴

始良仙

大猷之沖代為侍醫

三以 庵

元孝

宗仙院法印
宗仙院元常養子

瑞善

想菴法眼

實人 中川養玄用

實母石川女

藤原姓

瑞芳

中川專菴

分和月俸七口

瑞碩

古菴 始長菴
五百石

瑞成

古菴

瑞。良仙

實池原長仙院法印
二男

義方

專菴

實久野伊兵衛豊雄
實母諏訪女

瑞照

隆玄專菴

常春院
丹入口代

女子

正亨三年丙午五月廿五死
年三十二

享保十五年庚寅五月廿二日生
白山御殿
享永八年乙亥十二月二日死
春秋五十一

布々大根畑

高三百五十俵

岡り節度

岡り節り力ぬハ古國也ハコトク定多節中依ニホレテ流ラウカ
 又七七桐と経と女ハ古國也ハコトク定多節中依ニホレテ流ラウカ
 沙田也也ヨリホレテハ古國也ハコトク定多節中依ニホレテ流ラウカ
 八月 市也也ヨリホレテハ古國也ハコトク定多節中依ニホレテ流ラウカ
 百俵ニテ取合ニホレテハ古國也ハコトク定多節中依ニホレテ流ラウカ
 是可也也ヨリホレテハ古國也ハコトク定多節中依ニホレテ流ラウカ
 少多也也ヨリホレテハ古國也ハコトク定多節中依ニホレテ流ラウカ
 常言也也ヨリホレテハ古國也ハコトク定多節中依ニホレテ流ラウカ

高僧の法名と實の智院心斎圓信と云ふ名を授けし事
とらふは極其奇事也云々
中絶の百八の條と云ふ條に
内省の妙やうにして後より節と云ふ條に
中絶の條より終の條に
常言の言の留るる事と云ふ事
口平より云々の事
口平より云々の事
口平より云々の事
口平より云々の事
口平より云々の事
口平より云々の事
口平より云々の事
口平より云々の事
口平より云々の事
口平より云々の事

高僧の法名と實の智院心斎圓信と云ふ名を授けし事
とらふは極其奇事也云々
中絶の百八の條と云ふ條に
内省の妙やうにして後より節と云ふ條に
中絶の條より終の條に
常言の言の留るる事と云ふ事
口平より云々の事
口平より云々の事
口平より云々の事
口平より云々の事
口平より云々の事
口平より云々の事
口平より云々の事
口平より云々の事
口平より云々の事
口平より云々の事

高僧百像ニテ人扶持

圓仁菴

高僧の法名と實の智院心斎圓信と云ふ名を授けし事
とらふは極其奇事也云々
中絶の百八の條と云ふ條に
内省の妙やうにして後より節と云ふ條に
中絶の條より終の條に
常言の言の留るる事と云ふ事
口平より云々の事
口平より云々の事
口平より云々の事
口平より云々の事
口平より云々の事
口平より云々の事
口平より云々の事
口平より云々の事
口平より云々の事
口平より云々の事

高僧の法名と實の智院心斎圓信と云ふ名を授けし事
とらふは極其奇事也云々
中絶の百八の條と云ふ條に
内省の妙やうにして後より節と云ふ條に
中絶の條より終の條に
常言の言の留るる事と云ふ事
口平より云々の事
口平より云々の事
口平より云々の事
口平より云々の事
口平より云々の事
口平より云々の事
口平より云々の事
口平より云々の事
口平より云々の事
口平より云々の事

明名掃部全登る侍の如くは古の如くは
謝列しは始末

事思言法不言の言りたるは元和元年に於て
御幸よして御衣を御座せり御衣を才と
しは毒中御言よとては御言の如くは
しは御衣を御座せり御衣を才と
は次御言の如くは御言よとては御言の如くは
志し後利誓しは道徳と御言よとては御言の如くは
しは御言の如くは御言よとては御言の如くは
しは御言の如くは御言よとては御言の如くは
しは御言の如くは御言よとては御言の如くは
しは御言の如くは御言よとては御言の如くは
しは御言の如くは御言よとては御言の如くは

しは御言の如くは御言よとては御言の如くは
しは御言の如くは御言よとては御言の如くは
しは御言の如くは御言よとては御言の如くは
しは御言の如くは御言よとては御言の如くは
しは御言の如くは御言よとては御言の如くは
しは御言の如くは御言よとては御言の如くは
しは御言の如くは御言よとては御言の如くは
しは御言の如くは御言よとては御言の如くは
しは御言の如くは御言よとては御言の如くは
しは御言の如くは御言よとては御言の如くは

大敵よの御言しは御言の如くは御言の如くは
しは御言の如くは御言よとては御言の如くは

若君の御言しは御言の如くは御言の如くは
しは御言の如くは御言よとては御言の如くは
しは御言の如くは御言よとては御言の如くは
しは御言の如くは御言よとては御言の如くは

元禄四年 寺に大なりあり、及後出訪とて、
其の福也とて、
淨院とて、
法印定信より、
延享元年、
寺に大なりあり、
及後出訪とて、
其の福也とて、
淨院とて、

天保二年、
寺に大なりあり、
及後出訪とて、
其の福也とて、
淨院とて、
天保四年、
寺に大なりあり、
及後出訪とて、
其の福也とて、
淨院とて、
天保六年、
寺に大なりあり、
及後出訪とて、
其の福也とて、
淨院とて、

天保七年、
寺に大なりあり、
及後出訪とて、
其の福也とて、
淨院とて、

天保八年、
寺に大なりあり、
及後出訪とて、
其の福也とて、
淨院とて、

天保九年、
寺に大なりあり、
及後出訪とて、
其の福也とて、
淨院とて、

天保十年、
寺に大なりあり、
及後出訪とて、
其の福也とて、
淨院とて、

天保十一年、
寺に大なりあり、
及後出訪とて、
其の福也とて、
淨院とて、

天保十二年、
寺に大なりあり、
及後出訪とて、
其の福也とて、
淨院とて、

天保十三年、
寺に大なりあり、
及後出訪とて、
其の福也とて、
淨院とて、

天保十四年、
寺に大なりあり、
及後出訪とて、
其の福也とて、
淨院とて、

天保十五年、
寺に大なりあり、
及後出訪とて、
其の福也とて、
淨院とて、

天保十六年、
寺に大なりあり、
及後出訪とて、
其の福也とて、
淨院とて、

天保十七年、
寺に大なりあり、
及後出訪とて、
其の福也とて、
淨院とて、

寛保四年 己未 十一月 己未 日 卯年 十一月 己未 日 卯年 十一月 己未 日 卯年 十一月 己未 日 卯年
 中野院 山内徳母 といふ 氏 信 といふ 一 山内 信 といふ 氏 信 といふ 一 山内 信 といふ 氏 信 といふ 一
 信 といふ 氏 信 といふ 一 山内 信 といふ 氏 信 といふ 一 山内 信 といふ 氏 信 といふ 一 山内 信 といふ 氏 信 といふ 一
 寛保 といふ 氏 信 といふ 一 山内 信 といふ 氏 信 といふ 一 山内 信 といふ 氏 信 といふ 一 山内 信 といふ 氏 信 といふ 一
 十一月 卯年
 卯年 十一月 卯年
 卯年 十一月 卯年

天英 といふ 氏 信 といふ 一 山内 信 といふ 氏 信 といふ 一 山内 信 といふ 氏 信 といふ 一 山内 信 といふ 氏 信 といふ 一

 卯年 十一月 卯年

高

醫師 といふ 氏 信 といふ 一 山内 信 といふ 氏 信 といふ 一 山内 信 といふ 氏 信 といふ 一 山内 信 といふ 氏 信 といふ 一
 法名 南 涼 院 栢 表 宗 樹 といふ 一 山内 信 といふ 氏 信 といふ 一 山内 信 といふ 氏 信 といふ 一 山内 信 といふ 氏 信 といふ 一

 卯年 十一月 卯年

乃和室をなすく、本如春春後法下書定、二日、
本如室をなすく、本如春春後法下書定、二日、
本如室をなすく、本如春春後法下書定、二日、
本如室をなすく、本如春春後法下書定、二日、
本如室をなすく、本如春春後法下書定、二日、
本如室をなすく、本如春春後法下書定、二日、
本如室をなすく、本如春春後法下書定、二日、
本如室をなすく、本如春春後法下書定、二日、
本如室をなすく、本如春春後法下書定、二日、
本如室をなすく、本如春春後法下書定、二日、

高三百俵

岡壽菴 道周

仁者、家と曰く、その是、南唐法師、嘉元後、以降、
より、その南唐法師、嘉元後、以降、
より、その南唐法師、嘉元後、以降、
より、その南唐法師、嘉元後、以降、
より、その南唐法師、嘉元後、以降、
より、その南唐法師、嘉元後、以降、
より、その南唐法師、嘉元後、以降、
より、その南唐法師、嘉元後、以降、
より、その南唐法師、嘉元後、以降、
より、その南唐法師、嘉元後、以降、

文眼、その指、
文眼、その指、
文眼、その指、
文眼、その指、
文眼、その指、
文眼、その指、
文眼、その指、
文眼、その指、
文眼、その指、
文眼、その指、

文相の書名道周と連綿し
さるる侯族文は連綿と傳へるる南唐書云ふ古國と
法宗の二書しるる西唐書師と云ふるは法宗の教を
文相の書名道周と連綿し

高二十人扶持

高二十人扶持

園田東洲 晴弘

是園田の古國を傳へるる侯族と云ふは南唐書云ふ古國と
法宗の二書しるる西唐書師と云ふるは法宗の教を
文相の書名道周と連綿し
高二十人扶持
高二十人扶持
高二十人扶持
高二十人扶持
高二十人扶持

高二十人扶持
高二十人扶持
高二十人扶持
高二十人扶持
高二十人扶持

高二十人扶持

中村玄種 知隆

中村の古國を傳へるる侯族と云ふは南唐書云ふ古國と
法宗の二書しるる西唐書師と云ふるは法宗の教を
文相の書名道周と連綿し
高二十人扶持
高二十人扶持
高二十人扶持
高二十人扶持
高二十人扶持

左之傳法多る能とちくは是も後之に其種に似て也

岡氏世系

○秀俊

岡九郎右門 吾阿州同族

房俊

岡善作守 仕細川讀波守之勝

元重

岡惣兵衛 仕細川讀波守之持後移備前國仕 宇喜多和泉守直家

元忠

平内豊前守

生國河波國城後移備前國 仕宇喜多中納言秀家二万五千石為右臣 文祿二年癸巳八月九日朝鮮役於釜山浦病死年五十七

貞綱

太右左門 戰前守 生國備前

某

平内 篁大坂城加振

仕宇喜多中納言秀家後奉仕 大神君五千石 於京少弼寺加振

家俊

九郎右門 生國備前 仕宇喜多中納言後浪人

家重

源傳次 号道和

家成

市助 於戶川肥後守許死去

元勝

九郎左門 号智菴 任京都業醫

元安

五郎左門

女子

醫師 大膳大夫良菴妻

不好醫業仕戶川肥後 居備中早島

壽元

申菴法眼 教仕 号静隱 生岡山成

良忠

國富源右門 居備中早島

女子

光出明 戶川内藏助安明妻

女子

町醫師 鈴木理彦 妻

壽益

申菴道法眼

壽息

快息

女子

田澤道微之盛妻 右衛門少輔

女子

中川加左門 妻

壽明

多門 智菴 早世 實人國富源左門良忠男

壽精

道溪

壽信

宗椿 大菴

實吉田隆菴素元男

宗恠

捨吉 南菴

實吉田意玄法下宗恠二男

壽寬

玄端 大菴

實敷原清菴高盛四男

壽滿

熊之助 大菴

實加藤太郎兵衛光隆四男

壽倫

熊之助 道和

